

## 【MedSci Forum】 医療科学類新入生を迎えて（平成19年度入学式式辞）

浦山 修（医療科学類長）

平成19年度入学式式辞

医療科学類長 浦山 修

学類長を務めます、浦山です。まず、一年生の39名、3年次編入生3名の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんを迎えて“医療科学”は163名となりました。

皆さんは、晴れて昨日から大学生となりましたが、初めに、大学が長い歴史の中で、社会から負託された教育の使命について簡単に説明します。今、それを学生の皆さんと私たち教員のそれぞれの立場で考えてみます。まず、私たち教員は、皆さんの一人ひとりの個性を尊重して、知識と技術を教授します。次に、学生である皆さんは、大学生活を送る中で己の人格形成を図り、知識と技術を学び、自らの能力の開発に努めなければなりません。この教員と学生の共同作業によって、皆さんは「知（intelligence）」を獲得することになります。「intelligence」とは何かというと、単に見て聞いて知っているということではなく、ものごとの因果関係やその社会的意味を理解することです。そのような知の力をもって、大学は社会貢献を果たしていくことになります。

筑波大学の話に移りましょう。2002年10月に、医療・保健・福祉に係わる社会的な要請に応えるために、基本的な臨床能力を身に付けたコメディカルの学士を育成しようと、看護・医療科学類が設置されました。2003年4月に医療科学主専攻には一回生36名が入学、4年間の修業を終えて、今年3月に卒業していきました。一年生の皆さんは、今年度看護・医療科学類が改組し新しく発足した医療科学類の一期生ですが、医療科学主専攻から数えると5回生、3年次編入生の皆さんは3回生となります。なぜ学類改組を行ったかについては、学類案内等をご覧ください。医療科学類となって

も、教育の基本的なコンセプト（皆さんにどんな人材に育てて欲しいのか）は同じであります。先ほどの大学教育の使命に照らし合わせてみますと、皆さんは、つくばの地で、医療人としての使命感と責任感を養い、医科学の基礎的知識と技術を学びながら自らを高め、将来への道、すなわち医科学という学問を追求する道、あるいは臨床検査や医療情報を中心に高度専門医療を追求する道などを選択することになります。

将来への道を具体的に説明しましょう。一回生（3年次編入生を加えて40名）の卒後の進路は次のようでした。進学した者が17名、その中で大学院修士課程に進んだ者が14名、その他の3名は細胞検査士養成学校等に進学しました。一方、就職した者は23名（厳密には未定3名を含みます）、そのうち病院の検査部に就職した者は15名、検査センターを含め企業に就職した者は5名です。特徴的なのは、他大学と比べて大学院進学者が多いことで（全体の35%）、かれらは同時に臨床検査技師の国試に合格しましたので、将来は医療の現場に戻って、診断・治療に必要な新たな技術開発とその実践などに関わることが期待されます。

私は、一回生の1年から3年までクラス担任を務めました。かれらに話してきたことは、一生の仕事を考えて、臨床検査技師の国家資格を得ることは一里塚に過ぎなく、社会と時代の要請に応えるためにもキャリア・アップを図って欲しい、大学院進学しかり、複数の資格取得しかり、また英語力を高めることも必要です。皆さんにも、自らを一層高めることを考えて欲しいと思います。

ところで、今日、ここに、こうして皆さんと出会いましたが、私はたまたま教師、皆さんはたまたま学生として出会っています。4年後を考えてみてください。卒業後皆さんの多くは医学・

医療の道へと進むでしょう。我われの仲間入りをするわけです。我われは、先達から引き継いだ学問・研究を、やがては皆さんに託して発展させてもらわなければなりません。我われは、入学試験を課して、皆さんを選びました。皆さんは学力の点でも人物の点でも選ばれた人たちです。大いに自信をもってください。

最後に、この筑波大学で、よく学びよく遊び、4年後には我われの素晴らしい仲間となることを期待して、ご挨拶いたします。

(07/04/10)